

第6期事業報告書(1/2)

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

特定非営利活動法人益田市町おこしの会

【事業の成果について】

第6期の事業成果として大きなものは、以下である。

1. 第4回益田チャレンジャーズステージの実施

プレ大会を含め5回目となるこの大会は、昨年につきジュニア日本一位を決定する大会となった。開催時期も学生が参加しやすい8月に設定し開催された。当日は、気温39.5度という2018年の日本での最高気温を益田で記録した日となり、参加選手の熱中症が危ぶまれる中、男子ジュニアに関しては、6周回を5周回へ短縮し実施された。数人の軽度の熱中症の選手が出たが、その他は、大きな事故もなく関係諸部門、市民の方の協力により成功裡に終わらせることができた。この結果により平成30年度は、1931年より86回開催されている歴史ある全日本選手権を開催することとなった。

2. 第6回益田INAKAライドの実施

本年度大会は、今までの大会の中で最高な天気に恵まれ、参加者約500名は、一日益田の自然、食事を愉しみ、参加者のも96%に及ぶ方々から満足のアンケート結果を頂いた。

3. 平成29年度益田市協働のまちづくり事業として パラサイクルリストの招聘並びに未就学児童向け ペダル無し自転車(ストライダー)の普及と行った。

平成28年度益田市ふるさと協働事業として補助金を受け2020東京パラリンピック事前合宿立候補の為に試金石としてパラサイクリストを益田INAKAライドへ招聘した。また、自転車の町益田を目指すため、未就学児童向けにストライダーの講習会を実施し、自転車の普及、安全を図る事業を市と協働にて行った。

第6期事業報告書(2/2)

4. 益田市の2020東京オリンピック自転車ロード 海外チーム事前合宿誘致の為の諸活動

事前合宿誘致のためのロビー活動補佐をメインとし、自転車競技連盟
エキップアサダと連携を取りながら誘致の為の情報、折衝を実施
アイルランドチームの視察に際しても市をサポートした。

特定非営利活動に係わる事業実施に関する事項

1. 2017第4回益田チャレンジャーズステージ 兼第86回全日本自転車競技選手権大会 ロード・レース (MJ,MU17+15,WJ+WU17)

昨年に続き本年も、全日本ジュニアとして、参加者も215名を集め、2017年度の日本一を決定する大会となった。当日は、2017年日本で一番暑い日、そして暑い場所であった益田市にて、気温39.5度の中競われた。熱中症の心配もあったが、諸関係部門、地元住民の協力により、無事終了することができた。

今回の円滑な大会運営により、2018年度は、全日本選手権をこの益田にて開催する運びとなった。

第86回 全日本自転車競技選手権大会ロードレース
第4回 益田チャレンジャーズステージ
Masuda Challengers Stage
MJ, MU17+15, WJ+WU17

開催クラス/種目クラス
1. 男子ジュニア
2. 男子U17
3. 男子U15
4. 女子ジュニア
5. 女子U17
6. 女子U15

スタート/午前はロードレース、午後はロードレース
スタート/午前はロードレース、午後はロードレース

交通規制: 午前8時～午後5時(予定)

主催/鳥羽高自転車競技連盟
主審/公益財団法人日本自転車競技連盟
協賛/益田市、益田市教育委員会、益田商工会議所
公益財団法人益田市実業会、公益財団法人JKA
公益財団法人全日本実業連行協会
一般財団法人日本実業連行協会、一般財団法人日本自転車連盟
益田ライオンズクラブ、益田ロータリークラブ、益田西ロータリークラブ

主催 公益財団法人日本自転車競技連盟 <http://jtc.or.jp/>
NPO 法人 益田市・町おこしの家 office@masuda-genki.or.jp
<http://www.masuda-genki.or.jp/>

お問い合わせ: 011-86-22-1111
<http://www.masuda-genki.or.jp>



**第4回益田チャレンジャーズステージ
兼第86回全日本自転車競技選手権大会
ロードレース (U19,U17 男女 +U15 男子)
平成29年8月6日(日)**



**2017年度ジュニア各クラスの日本一を決定する大会
優勝者は、1年間日の丸のチャンピオンジャージを着用し
すべての大会に参戦可能。**

スタート：北仙道地区振興センター



急勾配上り坂



フィニッシュ



コーナーリング

表彰式



**地元住民の方のご協力により
一般公道 14.2km 通行止め
にて開催されました。**



この事業は、競輪の補助を受けて実施しました

2. 第6回益田INAKAライド実施活動

毎年、参加者より好評を頂き、益田INAKAライドファンも定着しつつあり、参加申込も2週間で定員となった。日本国内でも多数ライドの大会を行っているが、定員になる大会は、約10%と言われていた中、これまでの益田市民、関係諸部門の方の協力により、INAKAライドの高評価が定着したと言える。大会当日は、益田の夏を満喫し、そして96%の方(アンケート回答者のうち)が満足印を胸に帰路に着いた。



第6回 1.00km 走っても信号が1つもないサイクリングコース
益田I・NA・KAライド
9月3日(日) 開催

主催 / NPO法人 益田市・町おこしの会
後援 / 島根県、益田市、益田商工会議所、益田警察署、益田市教育委員会、益田西ロータリークラブ、益田ロータリークラブ、益田ライオンズクラブ、公益社団法人 益田市医師会、美濃商工会、国際ソロボチミスト益田

e-mail: office@masuda-genki.or.jp
<http://www.masuda-genki.or.jp/>

QRコード

スポーツくじ
BIG



第6回益田INAKAライド

平成29年9月3日(日)



◎白バイ先導のパレード走行



◎感動の萩・石見空港滑走路走行



◎参加者の方の99%が満足した
益田市民の応援、おもてなし



日本海海岸を走行

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業



山合を走行

3.平成29年度益田市協働のまちづくり事業

パラサイクルの普及

日本パラサイクリストの第一人者である末吉氏をINAKAライドへ招聘し、パラサイクリングの普及を図る為、平成29年度益田市協働のまちづくり事業の一環として実施した。



ハンドバイク
手のみで自転車を漕ぎます。



ストライダー講習会

最近ブームとなっているストライダー(未就学児向けペダル無し自転車)の安全な乗り方と普及を目的とし専門家により益田市の未就学児童へ平成29年度益田市協働のまちづくり事業として講習会を実施した。

4日間延べ250名の児童へ講習を実施し、講習後は、各園へストライダーを貸与中である。



4. 益田市の2020東京オリンピック自転車ロード 海外チーム事前合宿誘致の為の諸活動

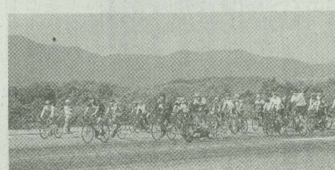
アイルランド自転車競技連盟の事前キャンプ
視察に際し、視察団との同行を行い招致活動
を行った。

5. その他トピックス

読売新聞全国版による当NPOの紹介

2017年(平成29年)7月8日(土曜日) 益田 益田 益田 益田

地域力



滑走路を走る益田INAKAライドの参加者
(昨年9月) = 益田市・町おこしの会提供

ロードバイクなどに乗った約50人が、ヒバリのさえずりが聞こえる田園地帯など緑豊かな景色の中を駆け抜ける。4月29日、島根県益田市を起点に開かれたサイクリングイベント。清流日本一に選ばれたことある高津川の河口を出発し源流を巡る、最長約120キロのコースを走った。

そんなイベントに象徴される、自転車でのまちおこしは、一人の女性の呼びかけがきっかけとなり、2011年に動き出した。

市出身で、東京でネットデザインとして活躍する齋藤佳名美さん(58)。祖母が起した同市のニット製品会社の商品開発に携わり、毎月のように古里を訪れるうち、「もっと人を呼び込みたい」との思いが高まった。

頭に浮かんだのが、自転車だった。健康志向や環境意識

自転車集う 絶好のコース



自転車イベントのコースになっている石見空港滑走路を眺める、益田市・町おこしの会メンバーの齋藤勝広さん(右から3人目)、齋藤佳名美さん(同4人目)ら(7月1日、島根県益田市で)

の高まりで地方の大会に参加する人がいると聞く。イベント開催はどうか。専門家「意見は聞くが、知人の紹介で知り合った元ロードレース選手で、指導者としても活躍する浅田顕さん(49)を招き、市内を走ってもらった。案内は、地元の愛好者団体「益田サイクリングサークル」

の会長齋藤勝広さん(49)らに協力をお願い。信号機の少ない公道、適度な起伏……。100キロ走って信号機が一つもないなんて最高です。浅田さんは絶賛した。過疎地の特徴を逆手に取れば、全国屈指のコースになるかもしれない。皆の心は躍った。

地域活性化の機運は高まる

少ない信号、滑走路も

12年1月、齋藤佳名美さん、齋藤勝広さんらを中心にNPO法人「益田市・町おこしの会」が発足。同年8月、海・山・川の自然を楽しみながら自転車で行く「益田INAKAライド」を開催した。呼び物をと、14年から、市内にある石見空港の滑走路を一部コースにして実施している。平常は1日2往復の羽田便だけであることに目を付け、国や県に打診し、空港利用促進の趣旨から了承を得た。開催費用は、同会メンバーが企業を回り協賛を呼びかけるなどして集めている。

地元住民と参加者とのふれあいは魅力の一つだ。石川陸枝さん(64)はボランティアとして、野菜のかき揚げを作り、休憩所で参加者に振る舞った。「来年も来ますと言ってくれるのがうれし」と喜ぶ。参加者の反応も「おはあちゃん」が農作業を止め、手を振ってくれた」など上々。参加人数は、昨年の第5回が52人で、初回の163人から3倍強に膨らんだ。

行政も動き出した。市は昨年3月、東京五輪・パラリンピックの自転車競技キャンプ地誘致に名乗りを上げた。石見空港では飛行機を降りた自転車愛好者がすぐコースを走れるよう、更衣室の整備計画が進む。

多くの人を呼び込むには、情報発信と共に、受け入れ態勢の整備が欠かせない。齋藤佳名美さんは「来てよかった」と思ってもらえるよう、今後も一人ひとりの力を集めて取り組むしかない」と訴える。

若手選手による本格的な競技会や高校の合宿など、自転車関連のイベントも増えたが、全国的な知名度をもっと高めることが課題だ。「益田へ走りに行きたい」という人々で古里がにぎわう日を、関係者は夢見ている。

(浜田支局 立山光一郎)

益田市

(島根県)

島根県の西端に位置し、広島、山口両県と接する。人口は今年5月末で4万7670人。美都、匹見の両町と合併した2004年11月から7000人近く減少した。石見空港



があり、平常は羽田便が1日2往復している。室町時代の水墨画家で知られる禅僧・雪舟が晩年を過ごしたと伝わり、市内には雪舟が手掛けた庭園が二つあるが、観光客の多くは空港経由で隣接の同県津和野町、山口県萩市に流れる傾向にあり、観光振興が課題になっている。

専用道路の整備促進

自転車愛好者を地域に呼び込み、観光振興につなげる動きが全国で目立っている。広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ「西瀬戸自動車道(しまなみ海道)には自転車道が整備されており、国内外から年間32万人(推計)が訪れる。宇都宮市で昨年開かれたロードレース「ジャパンカッ

プ」では、経済効果が28億4500万円と推計されている。交通海難の緩和や健康増進を図るため、自転車活用推進法が5月1日に施行されたことも、追い風になっている。国などは自転車の交通手段としての役割拡大に向けて、専用道路の整備などを促進させている。

当NPOホームページ閲覧実績

累計1300万ヒット突破！！
累計38万人突破！！

◎累計1000万回『益田』という文字を見て頂きました。

	ヒット数	ページビュー	閲覧人数
平成24年度	623,821	51,243	20,444人
平成25年度	803,847	96,700	25,113人
平成26年度	1,936,593	103,035	45,096人
平成27年度	3,656,744	164,984	66,585人
平成28年度	3,996,729	172,908	157,238人
平成29年度	2,260,641	163,335	69,642人
昨対	-1,736,088	-14,573	87,596人
累計	13,278,375	752,205	384,118人

昨年対比 マイナス170万ヒット

平成30年度全面リニューアル予定